様式Ｃ－１９

# 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年　６月　２５日現在

機関番号：12603
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2010～2012
課題番号：22401010
研究課題名（和文）イラン、アフガニスタンにおける議会主義の展開に関する実態的比較研究
研究課題名（英文）A Comparative Study of the Actual Situation about the Parliamentarianism in Iran and Afghanistan
研究代表者
八尾師　誠（HACHIOSHI MAKOTO）
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番：:20172926

研究成果の概要（和文）：
・イラン・イスラーム共和国議会図書館との研究協力協定調印
・イラン・イスラーム共和国議会図書館所蔵の同国国民議会関係文書のイラン側との共有（および本邦への将来）
・イラン国民議会第二議会「内規」全文の邦語訳及び解説論文の出版
・議会主義に関するイラン人研究者の著作の日本における出版助成
・イラン・イスラーム共和国議会図書館が発行する学術雑誌「バハーレスターン」の編集委員に八尾師が就任

研究成果の概要（英文）：
・Sealing a study cooperation agreement with the Library, Museum and Documentation Center of the Islamic Consultative assembly of Iran
・Joint ownership of the Iranian assembly documents with the Library, Museum and Documentation Center of the Islamic Consultative assembly of Iran and having brought the Documents to Japan
・Publication of a Japanese Translation of the Internal Regulations of Iranian Consultative Assembly(Second Majles) and its Commentary article
・Supporting to publish a book of an Iranian researcher on Iranian Parliamentarianism in Japan
・Prof. HACHIOSHI being a member of the editing board of academic journal 「Baharestan」 of the Library ,Museum and Documentation Center of the Consultative Assembly of the Islamic Republic of Iran

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| ２０１０年度 | 3,600,000 | 1,080,000 | 4,680,000 |
| ２０１１年度 | 2,500,000 | 750,000 | 3,250,000 |
| ２０１２年度 | 2,500,000 | 750,000 | 3,250,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | 8,600,000 | 2,580,000 | 11,180,000 |

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：2601 地域研究、地域研究

キーワード：地域研究、イラン・ザミーン、国民国家、議会主義、議会文書

## １．研究開始当初の背景

イラン・ザミーンを構成する諸国家群の中で、特に重要と考えられるイラン・イスラーム共和国における議会主義の展開に関しては、Ｅ．Ｇ．ブラウンやＡ．キャスラヴィ―などに始まり、Ｖ．マーチン、Ｍ．バヤート、Ｊ．アーファリーと続くイランの国内外における一連の立憲革命史研究の中で、一定程度の蓄積を見ている。分けても、立憲主義（constitutionalism）の分析に主眼を据えたＦ．アーダミヤトによる一連の研究は、飛躍的にその水準を高めた。とはいえ、当該問題の分析にとって不可欠と考えられる議会文書自体の分析を踏まえた研究となるときわめて手薄な状況にあり、また議会における政治文化といった問題関心からの分析・検討もほとんど行われていなかった。

また、アフガニスタン・イスラーム共和国に関していえば、近現代史研究自体が未だ本格的な研究の緒についていないばかりか、伝統的なジルガ(長老会議)についての研究は数点あるものの、Ｓ．Ｍ．プハニヤールの『アフガニスタンにおける立憲主義の登場と専制の犠牲者』（１９９６年）にしても、グレゴリヤンの古典的な研究（『The Emergence of Modern Afghanistan』,1969）にしても、Ｂ．ルービンのアフガニスタン現代史を扱った『アフガニスタンの崩壊』（２００２年）にしても、一次資料を用いた本格的な議会主義研究は皆無といってよい状況にあった。それでも２００１年に再生を果たした新生アフガニスタン・イスラーム共和国では、議会や憲法を通じても民主主義の定着にかける期待感は極めて大きく、その実現に向けての意気込みも並々ならぬものがあった。

イランにおける調査研究の対象となるイラン・イスラーム議会図書館とは、２００９年夏に訪問し、館長（当時）であるラスール・ジャファリヤーン氏と会い、当該資料に関する共同研究の申し出を行い、か快諾を得た。加えて、同図書館資料センター長（アリー・タタリ―氏）とも会い、共同研究の具体的なイメージづくりも済ませた。当該研究の唯一の外国人研究協力者である同議会図書館研究員のマジード・サーエリー氏と八尾師は八年来の知り合いで、２００９年の夏にも直接会い、本研究の趣旨説明も済ませた。同市も積極的な参加を希望し、協力を約束してくれた。

一方、アフガニスタン・イスラーム共和国における調査研究の対象となる同国国立公文書館とは、２００４年から２００８年までの五年間に及ぶ、同館所蔵資料の整理に関する共同作業の実績があり、議会議事録に関する調査・整理作業についても、予め話し合いを行った。

## ２．研究の目的

本研究の目的は、歴史的にひとつの地域的まとまりと考えられてきたイラン・ザミーンを構成するイラン・イスラーム共和国とアフガニスタン・イスラーム共和国における議会主義の展開について、これまで当該地域研究ではほとんど用いられることがなかった議会関係文書（会議録、議会関係諸規定など）の分析を通じて、その具体的・実態的態様を明らかにし、それぞれの国民国家における政治文化を比較検討することを通じて、イラン・ザミーンを一つの地域的単位として措定することの有効性を検証するにあった。

地域研究とは、有意味な比較を可能とする共通の枠組みを如何にして構築・設定してゆくかということにかかっている。今日の地球上は、中東・イスラーム地域を含めて、隈なく国民国家で覆い尽くされている。そこで、この国民国家を中期研究の共通の悪組として設定し、より有効性の高い分析枠組みとして練磨してゆくことは、地域研究の共通の手法として大きな可能性を秘めているといえる。

国民国家がその他の歴史的諸国家と決定的に異なっている点としてまず指摘されることは、何を措いてもまず、国民に最大の関心を向けていることである。原理的に国民を国家の主権者として、或いは主人公として措定する場合、それを保障するシステムとして浮上してくるのが国家運営への国民の参加を制度的に保証するシステムとしての議会の存在であり、一方では、その支配の正当性を裏付ける憲法の存在である。

議会主義とは、国家の最高意思を国民を代表する議会において決定してゆく政治方式を意図している。そうである以上、議会のあり方、換言すれば、具体的な議事運営の方法や、議案審議の手法、各議員たちの国会議員としての意識状況、更には出席状況などの、いわば一つの政治文化として括られるような諸側面は、極めて重要な問題群として浮上してくる。特に、国家（国民国家）の根幹を規定する憲法制定の審議を行う議会（制憲議会）における諸会議の実態は中心的な関心事となる。こうした諸問題にアプローチする本研究が当初意図した手法としては、イラン・イスラーム共和国議会図書館とアフガニスタン・イスラーム共和国国立公文書館に所蔵されてい

る議会文書の分析・検討であった。
　イラン・イスラーム共和国については、同共和国イスラーム議会図書館に、またアフガニスタン・イスラーム共和国に関しては、同国立公文書館にそれぞれ所蔵されている。これらの一次資料を分析することにより、両国議会においてみられる政治文化の特徴を明らかにしたうえで、両者を比較検討することを通じて、イラン・ザミーンの政治文化的な一体性を考察する。

３．研究の方法
　当該研究の遂行にあたって中心的資料として想定したのは、議会会議録や提出された請願書、議会関係者らが残した関係文書類などのいわゆる議会文書である。
　イラン・イスラーム共和国に関していえば、具体的には、議会会議録と各議会に提出された膨大な請願書（陳情書）とそれらへの返答および議会関係者らが残した関係諸文書である。議会会議録は、イスラーム革命（１９７９年２月）以前のいわゆるイラン国民議会に関しては、第一議会から第二十四議会に至るまでの全て、また上院（セナー）に関しても第一議会から第七議会までの全てが既に刊行されているので、それらの収集作業は容易に実現された。更に、イスラーム革命後に関しては、議会会議録は紙媒体のみならず、ＣＤ版も一般に出回っているので、これらの収集も難なく実現された。但し、当該研究で中心的な分岐の対象と想定していたイラン国民議会第一議会の会議録は、１９０８年6月２３日に国王の直属部隊（カザーク連隊）による議会砲撃により物理的に閉鎖やむなきに至った際に、取られていた会議録の全てが失われてしまったという経緯もあり、現在刊行されている第一議会会議録は、当時発行されていた新聞「マジレス」紙に掲載された議会報告に基づく再構成であるので、極めて不十分なところがある。これを補うのが、第一議会に提出された膨大な量に上る請願（陳情）書類とそれらへの返書及び議会関係者が残した様々な資料類である。これらの資料はイラン・イスラーム共和国議会図書館に所蔵されており、これらを分析することで、第一議会の実態を相当程度明らかにすることが可能になると考えた。
　一方、アフガニスタン・イスラーム共和国に関しては、基本資料の所蔵元である同国国立公文書館には、残念ながら専門の研究者は不在であり、ゆくゆくはカーブル大学歴史社会学部のスタッフに研究スタッフとして協力・応援を仰ぐ予定ではあったが、当面は、Ｒ．ムザッファリ―氏（カーブル大学出身で、東京外国語大学大学院の八尾師のもとで博士号を取得したのち、カーブル大学歴史社会学のスタッフとなった）に側面協力を仰ぐこととした。

４．研究成果
　アフガニスタンに関しては、依然として治安状況が好転せず、八尾師が直接現地に赴いて、同国国立公文書館所蔵の議会文書の調査研究を実践することはできなかったが、イランに関しては、当初想定していた成果はほぼ達成することが出来た。
　具体的には、当該研究が開始当初から考えていたイラン側のカウンターパートであるイラン・イスラーム共和国議会図書館との研究協力関係（協定書調印）を実現することが出来、同協定に基づき、同図書館資料センター所蔵の議会文書類の調査研究を実施できた。また、同図書館が中心となり、近年盛んに実施されてきたイラン議会史をめぐるコンフェランスにも参加する機会を得た。そこから得たイラン本国における議会史研究の現状を踏まえ、イランでもこれまで全く手つかずの資料であった「議会内規」に着目し、その（１９０９年の議会内規）全文の邦語訳と解説論文を作成した。
　加えて、イラン側カウンターパートとの共同研究の一環としては、同図書館資料センター長が昨年に上梓したイラン議会の財政面、組織面に新たな光を当てた貴重な成果（ペルシア語）を本邦で出版・刊行する作業にも着手した。
　最後に、八尾師は、２０１３年より、イラン・イスラーム議会図書館が発行している、同図書館所蔵の一次資料の分析研究を主たる内容とする学術雑誌「バハーレスターン」の編集委員として参画する機会も与えられ、今後の研究に向けての確かな手応えを得ることが出来た。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（計５件）

① 八尾師　誠（単）、イラン国民議会内規について、（仮）全訳議会内規、東洋文庫、２０１３年発行予定（査読無）。

② 八尾師　誠（単）、写真によるホメイニー師表象の変化とイラン・イスラー革命、（仮）画像史料論、東京外国語大学出版会、２０１３年、pp.2-19（査読無）。

③ 八尾師　誠（単）、百科事典『ダーネシ

ュ・ゴスタル』の出版と日本認識の広がり、イスラム世界、vol.78,２０１２年,pp.46-53(査読有)。

④ 八尾師　誠（単)、国号「アフガニスタン」再考―＜全編＞―、史朋、no.43,２０１０年、pp.1-17(査読有)

⑤ 八尾師　誠（単)、「ホメイニー師伝」から見たイラン・イスラーム革命、中東研究、no.509,２０１０年, pp.22-28(査読有)。

６．研究組織

⑴研究代表者

八尾師　誠（HACHIOSHI MAKOTO）
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号：20172926